コープ低公害車開発、CO2排出13%削減のLPガストラック開発

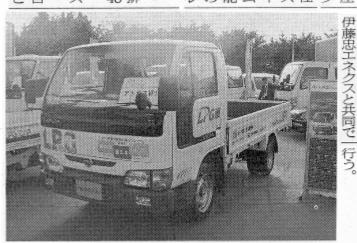
2005/10/14 日刊工業新聞 Newsウェーブ21 5ページ 309 文字

コープ低公害車開発(横浜市港北区、小林勉社長、045・472・7913)は、伊藤忠エネクス、日気サービス(東京都板橋区)と組み、ガソリン車に比べ二酸化炭素(CO2)排出量を13%削減したLPガストラックを開発した。ガソリン車をLPガス車に改良したもので、06年初頭には商品化する計画。生活協同組合で導入を加速する方針。改造した小型トラックは「日産アトラス」をベースに、電子制御LPG気体噴射(インジェクション噴射)を搭載、燃料をガソリンから環境負荷が小さいLPGに切り替えることで、CO2排出量を抑制する。

全国の生協では94年以降、低公害車への切り替えを進めており、現在までに5423台(転換率35%)を達成している。

The Nikkan Jidosha Shimbun

を採用することで、 を気体で噴射する最新 日気サービス(野澤信吾 出量は13% ター)方式に比べ、当、 ガスミキサー を大幅に高めた。 ンジェクションシステム 自 トラックの実証調査は、 ガソリン車よりCO。排 1:5% ルクのダウンがなく また、先進型LPガス 動車の小型トラック 新型トラックは、 東京都板橋区)と NOxは8 をLPG仕 (キャブ



コープが開発した先進型LPGトラック

2005年10月4日(金)日刊自動車新聞

リーと低公害両立

コープ低公害 車 開 発

から。 入した場合のCO。削減 シミュレーションなどを シミュレーションなどを シミュレーションなどを ののののの。削減 取り組み、同様の車両を